

グローバル・プロスペクティブ・ファンド 〈愛称 イノベーティブ・フューチャー〉

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

第1期(決算日2020年5月20日)

作成対象期間(2019年6月28日～2020年5月20日)

第1期末(2020年5月20日)

基準価額	12,147円
純資産総額	368,054百万円
第1期	
騰落率	21.5%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「グローバル・プロスペクティブ・ファンド」は、2020年5月20日に第1期の決算を行いました。

当ファンドは、主として、「日興AMARK ディスラプティブ・イノベーション・ファンドクラスA」円建投資証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

<644730>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

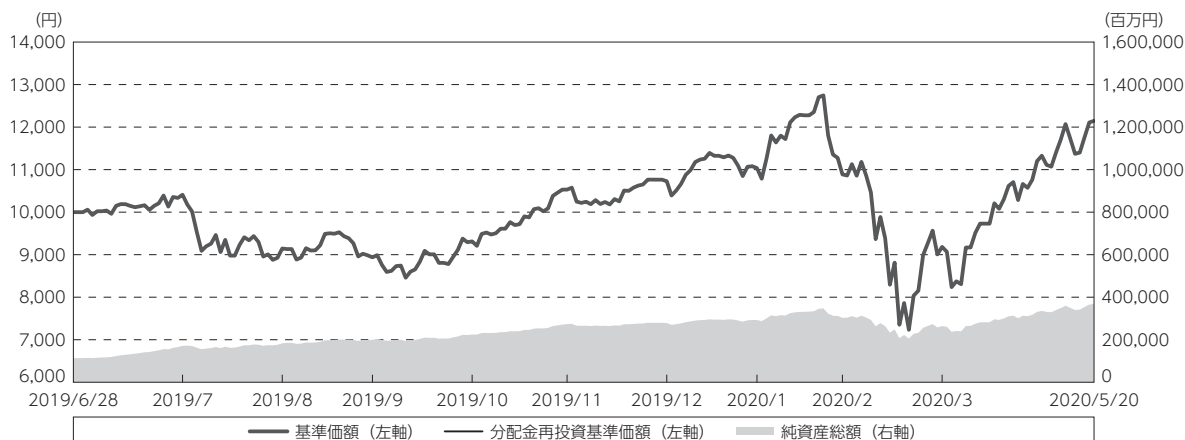
コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2019年6月28日～2020年5月20日)



設定日：10,000円

期末：12,147円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：21.5% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、日本を含む世界の金融商品取引所に上場されている、破壊的イノベーションを起こし得るビジネスを行なう企業の株式(預託証券を含みます。)を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による混乱した状況が、投資対象である破壊的イノベーションを起こし得るビジネスを行なう企業にとって、普及率の加速と潜在市場の拡大などの恩恵を受けていると市場がみなしたこと。
- ・保有するヘルスケア企業が、市場の注目度の高いカンファレンスにおいて自社の医薬品の有効性に関してポジティブなデータ結果を公表したこと(2019年末～2020年初め)。
- ・保有するTesla Inc.や、Teladoc Health, Inc.などの銘柄が値上がりしたこと。

<値下がり要因>

- ・腫瘍治療分野の遺伝子解析ベースの診断検査に対する米国メディケア・メディケイド・サービスセンター（CMS）の改定NCD（医療保険給付金の決定）を巡って、保険が適用される検査が狭められることにより、遺伝子検査企業の売上の伸びが鈍化すると懸念されたこと。
- ・自動車セクターからの需要の減少や製造業者による購入の鈍化、2019年の米中貿易摩擦の激化などの影響を受けて、保有する3Dプリンティング企業の株価が低迷したこと。
- ・保有するIllumina,Inc.などの株価が売上成長率の鈍化などから相対的に不振となったこと。

1万口当たりの費用明細

(2019年6月28日～2020年5月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	78	0.769	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(15)	(0.148)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(60)	(0.591)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（ 受 託 会 社 ）	(3)	(0.030)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	1	0.005	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 ）	(0)	(0.001)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	79	0.774	
期中の平均基準価額は、10,135円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

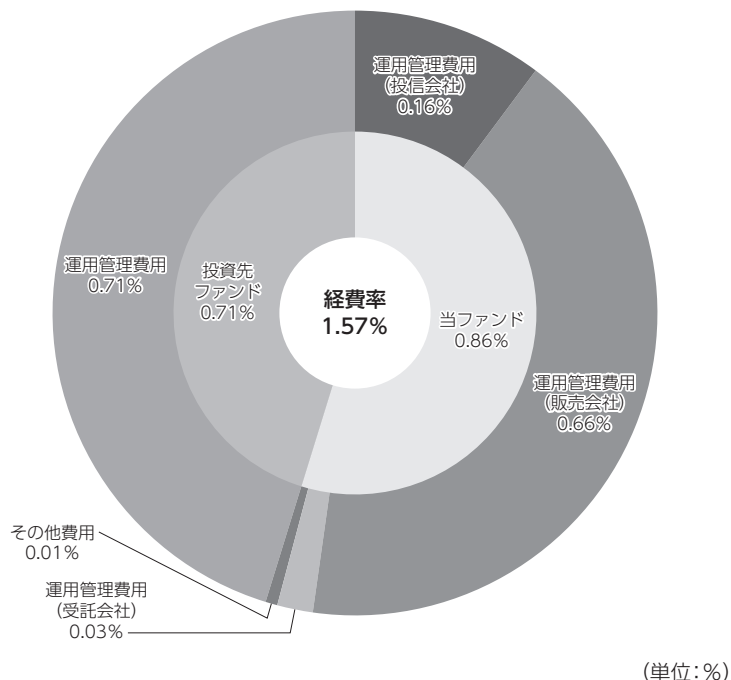
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

(参考情報)

○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.57%です。



経費率 (①+②)	1.57
①当ファンドの費用の比率	0.86
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.71

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2015年5月20日～2020年5月20日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 当ファンドの設定日は2019年6月28日です。

	2019年6月28日 設定日	2020年5月20日 決算日
基準価額 (円)	10,000	12,147
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	21.5
純資産総額 (百万円)	113,560	368,054

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2020年5月20日の騰落率は設定当初との比較です。
 (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

投資環境

(2019年6月28日～2020年5月20日)

(株式市況)

2019年後半のグローバル株式市場は、世界中で実施された金融緩和や米国における順イールドカーブ(利回り曲線)のスティープ化などを好感して、全般的に上昇しました。米中貿易協定の「第1段階」が具体化するにつれて、世界の主要国の購買担当者景気指数(PMI)が安定化の様相を見せ、安全を求めるドル資産への逃避に歯止めがかかりました。消費支出は米国や中国などで環境が整いつつあることを示唆しました。しかし、2020年第1四半期に入って、各国の株式市場が総じて過去最高値を更新した後、突然下落の相場に転じました。特に3月は、投資家が新型コロナウイルスの経済活動への影響を懸念して保有資産の現金化のため銘柄の区別なく株式の全面的な売りを先行させるなか、グローバル株式市場の月間リターンが2008年以来で最低となりました。各国が新規感染者数の増加率を抑え新型コロナウイルスの感染拡大ペースを鈍化させるべく極端な対策を講じたため、市場では世界的な景気後退に陥るとの不安が高まりました。米国国債の利回りは過去最低水準へと低下しましたが米国連邦準備制度理事会(FRB)が非常に積極的な金融緩和を行なったことから、イールドカーブは大幅にスティープ化しました。4月から期間末にかけてのグローバル株式市場は、全般的に新型コロナウイルス危機からの回復を見せました。財政・金融政策当局が新規感染者数の増加率を抑制させるべくかつてない規模の対策を講じたことから、世界的な景気後退に陥るとの不安は後退しはじめました。

(国内短期金利市況)

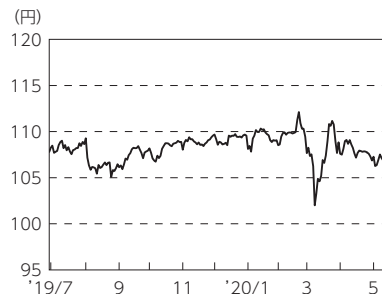
無担保コール翌日物金利は、期間の初めの-0.08%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、-0.06%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券(TB)3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.13%近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、-0.13%近辺で期間末を迎えました。

(為替市況)

期間中における主要通貨(対円)は、右記の推移となりました。

円/アメリカドルの推移



当ファンドのポートフォリオ

(2019年6月28日～2020年5月20日)

(当ファンド)

当ファンドは、収益性を追求するため、「日興AM ARKディスラプティブ・イノベーション・ファンド クラスA」円建投資証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

(日興AM ARKディスラプティブ・イノベーション・ファンド クラスA)

期間中の主な投資行動としては、低高度軌道の衛星コンステレーション（多数の衛星を統合して運用するシステム）による衛星通信ネットワークを有するIridium Communications,Inc.や、機械学習やデータ分析のアプリケーションで幅広く使われているフラッシュ（半導体メモリ）・ベースのデータストレージ（データ保管）・ソリューションにおけるリーディング企業であるPure Storage Inc.、デジタル・メディア分野で有望な投資機会を提供しているSnap Inc.、マーケティング企業にとって非常に価値の高いユーザー・ベースを有しているPinterest,Inc.、東南アジアのeコマース・ゲーム企業であるSea Limitedなどの銘柄を新規に購入しました。

一方、Aptiv PLCや、PayPal Holdings,Inc.、The Trade Desk,Inc.、Iovance Biotherapeutics,Inc.などの銘柄を売却して、より確信度が高くバリュエーション（株価評価）がより魅力的であるとする他の銘柄の投資機会を捉えるべく、入替えを行ないました。

(マネー・アカウント・マザーファンド)

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コール・ローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2019年6月28日～2020年5月20日)

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金

(2019年6月28日～2020年5月20日)

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第 1 期
	2019年6月28日～ 2020年5月20日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,167

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(当ファンド)

引き続き、「日興AMARKディスラプティブ・イノベーション・ファンド クラスA」円建投資証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

(日興AMARKディスラプティブ・イノベーション・ファンド クラスA)

新型コロナウイルスの影響による株式市場の弱気心理のピークは過ぎたように見受けられますが、株式市場はいわゆる底打ちの過程において不安定な動きが続く可能性があります。市場は悪いニュースを相当程度、織り込んでおり、2020年2月から3月にかけての株価の動きは過剰反応であったかもしれません。強いて言えば、株式市場の大幅な下落は新型コロナウイルスの感染拡大の深刻さを浮かび上がらせ、世界中の国々の政策当局を世界経済への影響を軽減し覆すための全面的な対策へと駆り立てたばかりでなく、個人や企業に対してソーシャル・ディスタンス（社会的距離の確保）や衛生状態の改善により事態解決に貢献することの重要性を認識させました。一方、原油価格の下落は、最終的に大半の消費者や企業の購買力を大幅に増大させることになるとみられます。加えて、米国の消費者の貯蓄率が過去最高にまで上昇しており、繰り延べ消費需要が景気回復を支えると見込まれるほか、場合によってはこの需要が企業の想定を上回り、慌てた企業が増産などを行なう可能性も考えられます。

新型コロナウイルスが世界への影響を強めるなか、主要国の政策当局がその痛手の緩和と、当該疾患が引き起こす問題に革新的なソリューションを提供する企業との連携に全力を注いでいることを評価しています。不安や不透明感、疑念が強い時には、企業や消費者は、行動を変化させより生産性が高く、より安価で、より早く、より創造性に富む革新的な製品・サービスを求めることに、一段と積極的になります。その結果、激動の局面では、イノベーションが根付くとともに大幅な市場シェアを獲得しやすくなりますが、今回の新型コロナウイルスのパンデミック（世界的流行）はそのような局面の1つといえます。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

(マネー・アカウント・マザーファンド)

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主要投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コール・ローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

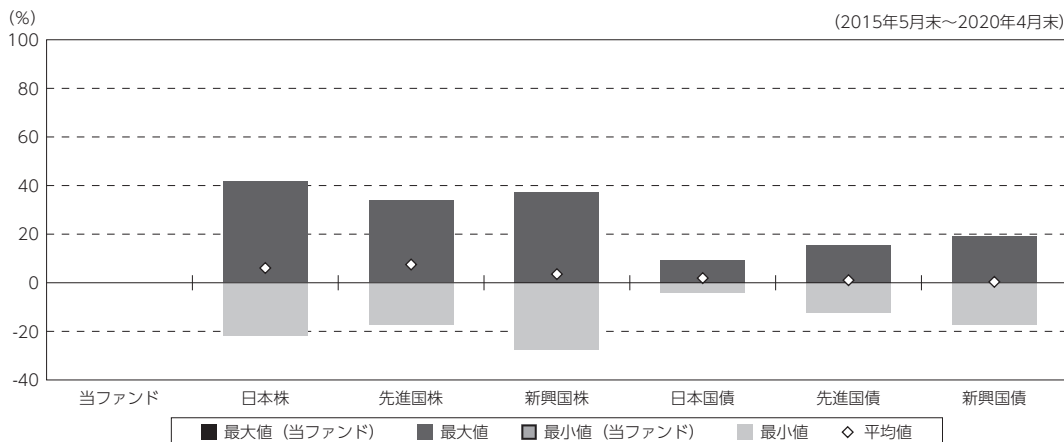
2019年6月28日から2020年5月20日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式
信託期間	2019年6月28日から2029年5月21日までです。
運用方針	主として、日本を含む世界の金融商品取引所に上場されている、破壊的イノベーションを起こし得るビジネスを行なう企業の株式（預託証券を含みます。）を投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「日興AMARKディストラティブ・イノベーション・ファンド クラスA」 円建投資証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」 受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	主として、日本を含む世界の金融商品取引所に上場されている、破壊的イノベーションを起こし得るビジネスを行なう企業の株式（預託証券を含みます。）を投資対象とする投資信託証券の一部、またはすべてに投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。投資信託証券の合計組入率は、高位を保つことを原則とします。各投資信託証券への投資比率は、原則として、市況環境および投資対象ファンドの収益性などを勘案して決定します。
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	-	41.9	34.1	37.2	9.3	15.3	19.3
最小値	-	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	-	6.1	7.5	3.5	1.9	1.1	0.4

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2015年5月から2020年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドにつきましては、運用期間が1年未満であるため掲載しておりません。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●NOMURA-BPI 国債は、野村証券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村証券株式会社に帰属します。なお、野村証券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLC により運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLC に帰属します。●JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLC が算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLC に帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2020年5月20日現在)

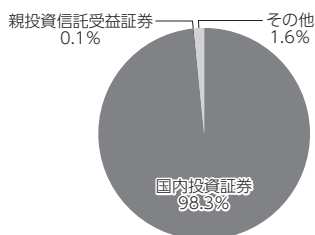
○組入上位ファンド

銘柄名	第1期末
	%
日興AM ARKディスラプティブ・イノベーション・ファンド クラスA	98.3
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

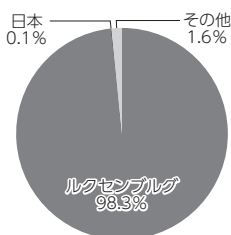
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

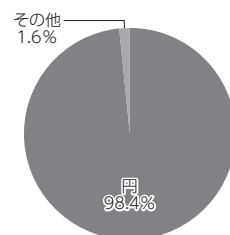
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資証券には外国籍(邦貨建)の投資証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

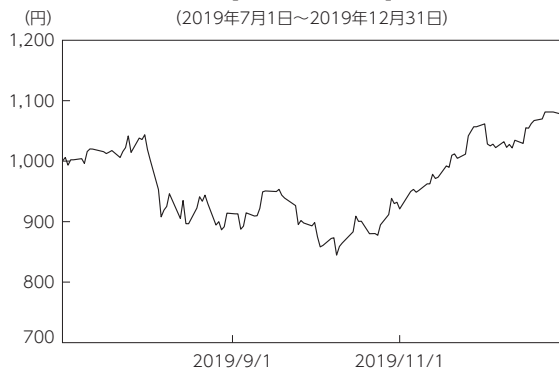
項目	第1期末
	2020年5月20日
純資産総額	368,054,245,008円
受益権総口数	303,010,581,725口
1万口当たり基準価額	12,147円

(注) 期中における追加設定元本額は204,272,180,410円、同解約元本額は14,821,975,684円です。

組入上位ファンドの概要

日興AMARKディストラプティブ・イノベーション・ファンド クラスA

【基準価額の推移】



(注) グラフは分配金再投資基準価額です。
(注) 2019年7月1日から組入れを開始しております。

【1万口当たりの費用明細】

(2019年1月1日～2019年12月31日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

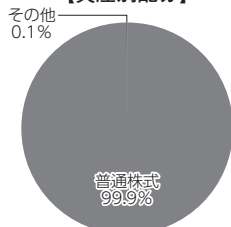
【組入上位10銘柄】

(2019年12月31日現在)

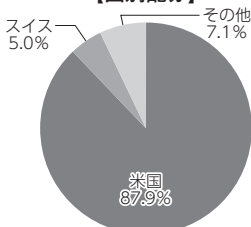
銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国(地域)	比率 %
1 Tesla, Inc.	普通株式	アメリカドル	米国	9.8
2 Illumina, Inc.	普通株式	アメリカドル	米国	7.1
3 Square, Inc. Class A	普通株式	アメリカドル	米国	6.5
4 CRISPR Therapeutics AG	普通株式	アメリカドル	スイス	5.0
5 Invitae Corp.	普通株式	アメリカドル	米国	4.9
6 Stratasys Ltd.	普通株式	アメリカドル	米国	4.4
7 2U, Inc.	普通株式	アメリカドル	米国	4.0
8 Editas Medicine, Inc.	普通株式	アメリカドル	米国	3.9
9 NanoString Technologies, Inc.	普通株式	アメリカドル	米国	3.3
10 Zillow Group, Inc. Class C	普通株式	アメリカドル	米国	3.1
組入銘柄数			42銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。
(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

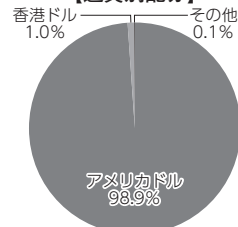
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】

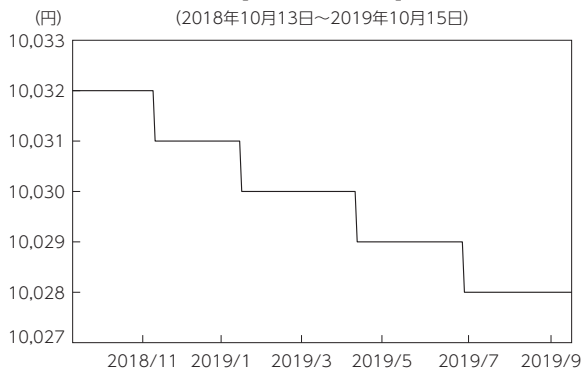


(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

マネー・アカウント・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2018年10月13日～2019年10月15日)



【1万口当たりの費用明細】

(2018年10月13日～2019年10月15日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) そ の 他 費 用 (そ の 他)	1 (1)	0.005 (0.005)
合 計	1	0.005

期中の平均基準価額は、10,029円です。

- (注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

組入資産の内容

(2019年10月15日現在)

2019年10月15日現在、有価証券等の組入れはございません。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。